

科 目 名	必修・選択	単位数	類型
美術Ⅰ	選択必修	2	共通
教科書	新・高校生の美術1（日本文教出版）		

1 学習目標

美術の幅広い活動を通して、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造性を伸ばし、芸術文化についての理解を深めることを目指しています。

2 学習概要

一学期は、透視図法の知識を併用しながら、空間のとらえ方・表現方法を学びます。また色彩理論や画面構成の基礎について学びながら実習を行います。二学期以降、発展学習として絵画、デザイン、映像、立体各分野の作品制作を行います。また随時関連分野の作品鑑賞を行います。

絵画分野は、内面を意識した人物表現や既成の表現を引用して新たな表現を思考します。デザイン分野では構成美の要素を学習するとともに、暮らしを彩る実用的な文様表現の実習を行います。映像表現では、優れた映像作品の鑑賞をし、絵コンテ作成、ストップモーションアニメの映像表現を学びます。全体として、文化的な素養を身につけ、美術の楽しさを味わえる課題を設定し、変化に富んだ創作活動ができるよう考えています。

3 学習方法

美術の学習は、作品制作を通して行います。ものをつくる行為は、結果だけでなくその過程にも意味があります。試行錯誤し悩みながらつくった作品は、巧拙にかかわらず十分な魅力を放つことができるでしょう。良いものをつくろうと思いを込めた作品は、自らの分身のように愛おしく感じるでしょう。さらに、結果として自分自身がどんな力を獲得できたか検証することが大切で、美術で学んだことを実生活に活用できるように学習してほしいと思います。同時に、日本文化の奥深さに気づき、諸外国の美術にも興味を広げ、文化的な教養を身につけることも美術のねらいです。

4 評価について

（1）評価方法

評価は、題材ごとに「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点を念頭に行います。ワークシートや提出作品の内容から表現を追求しようとする姿勢や技術力・発想力等について評価すると共に、授業中の様子や制作に取り組む態度などを総合的に評価します。また各学期末の考査で知識の習得の度合いを確認します。

（2）評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	- 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 - 創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	美術や美術文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。

5 学習計画

学期	単 元 名	学習のねらい（内容のまとめごと）	考查等
一 学 期	オリエンテーション 「素描表現」 - 基本的な物の見方、とらえ方 「デザインの基礎」 - 色彩の仕組み 色の3属性、色の対比等 - 構成理論 構成美の要素	- 高校で美術を学ぶ意味を理解し、年間の授業計画を知る。 - 物の見方、とらえ方の基本や透視図法の基礎を理解し、簡単な形状を的確に表現する力や立体の陰影表現の基礎を身に付ける。 - 色彩の基本的な仕組みを体系的に理解し、意図に応じた配色の方法を学習する。 「シンメトリー」「リズム」「バランス」などの構成美の要素を理解し、画面上で意図に応じたレイアウトを行う力を身に付ける。	ワークシート ワークシート 作品提出 期末考查
二 学 期	「自画像よる内面表現」 「生活とデザインの関わり」 「表現の継承と創造」	- 自己を見つめ、感じ取ったことや考えたこと、自己の体験などから主題を生成し、創造的な自画像表現を行う。 - 暮らしに根ざしたデザインの実例を学び、生活用品に利用を想定したデザイン柄を考案する。 - 感銘を受けた作品や自己のアイデアとの結びつきを感じる作品を選定し、それを基にした独自のアレンジ表現による絵画制作を行う。	ワークシート 作品提出 ワークシート 作品提出 ワークシート 作品提出 期末考查
三 学 期	「立体表現」 「映像表現」	「積層立体」のしくみを活かした独自のアイデアを基に平面画像を重層構造に組み立て、擬似立体を制作する。 - 現代の映像と映像黎明期のものを比較鑑賞し、今日の映像文化の果す役割について考える。 - 絵コンテを作成し、ストップモーションアニメの制作を行う。	ワークシート 作品提出 ワークシート 作品提出 期末考查